

EIDD ストックホルム宣言◎

「良いデザインは可能にするが、悪いデザインは不可能にする」

はじめに

1993年の創立直後、EIDD – Design for All Europe は、「Design for All を通じて生活の質を向上させる」というミッション ステートメントを策定しました。

Design for All に関するヨーロッパのプラットフォームとしての10年間の活動を通して、対外関係と内部構造（現在ヨーロッパ16か国の加盟組織、法人会員、個人会員）の構築と発展を経て、EIDD は Design for All 宣言を発行する時期が来たと確信しています。

Design for All は、1950年代のスカンジナビアの機能主義と1960年代の人間工学に基づいたデザインの双方にルーツがあります。スカンジナビアの福祉政策には社会政治的背景もあり、1960年代後半のスウェーデンでは主にアクセシビリティを指す「すべての人のための社会」という概念が生まれました。このイデオロギー的思考方は、1993年12月の国連総会で採択された、障害者の機会均等に関する国連標準規則に組み込まれました。明確な平等の文脈におけるアクセシビリティに国連標準規則が焦点を当てていることは、Design for All の哲学の発展に影響を与え、1995年にバルセロナで開催された年次総会で EIDD に一般的に受け入れられる概念となりました。

同様の概念が世界の他の地域でも並行して発展しています。アメリカ障害者法はユニバーサル デザインの進化に貢献し、英国ではインクルーシブ デザインが定着しました。

今日、すべての人のための計画とデザインは、持続可能な開発のための積極的な戦略に必要な要素としてますます認識されています。

したがって、**EIDD – Design for All Europe** は、**2004年5月9日**にストックホルムで開催された年次総会の際に、次の宣言を採択します。

ヨーロッパ全土で、人間の年齢、文化、能力の多様性はかつてないほど高まっています。私たちは今、かつてないほど多くの病気や怪我を乗り越え、障害を抱えながら生活しています。今日の世界は複雑な場所ではありますが、それは私たち自身が作り上げたものであり、したがって私たちはその中でインクルージョンの原則に基づいてデザインを行う可能性と責任を持っています。

Design for All は、人間の多様性、社会的包摂、平等を目的としたデザインです。この総合的かつ革新的なアプローチは、すべてのプランナー、デザイナー、起業家、管理者、政治指導者にとって創造的かつ倫理的な課題となります。

Design for All は、すべての人々が社会のあらゆる側面に平等に参加できる機会を与えられるようにすることを目指しています。これを達成するには、建築環境、日用品、サービス、文化、情報、つまり、人が使用するために人によって設計され作られたすべてのものは、社会の誰もがアクセスでき、便利に使用でき、人類の進化と多様化に対応できるものでなければなりません。

Design for All の実践では、人間のニーズと願望の分析を意識的にとり入れるため、デザインプロセスのあらゆる段階でエンドユーザーの関与が必要です。

したがって、EIDD – Design for All Europe は、欧州の機関、国、地方自治体、専門家、企業、社会関係者に対し、政策や行動において Design for All を導入するためのあらゆる適切な措置を講じるよう求めます。